

しかはま自然観察会

# のらえもん

『人も 自然も みんなともだち !』No.13

代表責任者

古高 利男

☎270-1132

我孫子市湖北台 2-14-7

☎090-7275-9890

2013, 11, 9 (土)

## 第3回活動「竹笛作り」

- ・・・1本の竹から、ほんとうに笛ができるのだろうか？
- ・・・どんなところを工夫したのだろうか？

1, 日 時：2013年11月9 (土) 午後2:00～4:00

2, 場 所：いきいき館

3, 主 催：のらえもん

いきいき館

鹿浜西小開かれた学校づくり協議会 共催

4, 講 師：梅北 朋起 (しかはま自然観察会のらえもん会員)

5, 参加者：家族8 内訳 大人 6

小学生 7

合 計13 スタッフ2 合 計15

他の参加者 15 総合計30

6, 活動の様子

### ○ 材料

材料は、畑の近くに生えているアズマネザサです。ノコギリで切って準備しておくのと、なんとちじんではありませんか！今年育った竹で、竹細工には使い物にならないようです。なるほど！と学びました。古い竹を探してなんとかそろえることが出来ました。いきいき館では、竹笛に適したものを用意してくれていました。

### ○ 道具

竹をけずるために、小刀を使いました。普段、使う機会がありませんので、大丈夫かな？と思いながら見ていました。子どもたちは、十分に気をつけて使いこなしてくれました。

竹の穴開けには、いきいき館で電動の道具を用意してくれました。きれいに、サツとでき、大いに助かりました。

### ○ 紙やすり

竹をこすると、つるつるできれいな表面になりました。口で吹くところも紙やすりをかけて、なめらかにしました。あまり使わない紙やすりの働きに、新しい発見をしたようでした。

○ パーツが完成です。筒の部分（音をつくる場所）と吹く部分を組み合わせます。筒の穴に少しずつ近づけて、一番音の出る場所を探します。見つかったら、瞬間接着剤で固定します。

○ 音が出たときの、大人も子どもも、その表情のうつくしいこと！！それまでの苦勞が報われた瞬間ですね！！音色も、それぞれが気持ちよさそう！！

講師：梅北 朋起様の感想

まずは、ほとんどの参加者の竹笛が鳴っていたので一安心でした。

身近にある素材にひと手間かけることで、楽器になったり遊び道具になったりする体験ができたのかなと思います。

今回は、ナイフで鉛筆を削ったこともないという小学生がほとんどだったと思います。が、大きなケガもなく、自分たちの手でしっかりといい音の出る笛が作れたときの子どもたちの満足そうな顔がとても印象的でした。

今回の竹笛は、筒と筒を合わせるという単純な構造のものです。ご家庭にあるストローなどでも同じように着くって、音が出るか試してみるのもおもしろいかもかもしれません。いい音の出る笛ができれば教えてくださいね。

これを機会に、安全な刃物の使い方を覚えてくれたり、創作意欲が高まって面白い作品が生まれてくるのを楽しみにしています。

## 7、親と子のいきいき感想

○ ふえづくり、またやりたいです。たのしかったです。

上沼田小 1年

\* 竹笛を、最初作るときは、むずかしかったです。とくに、最初のけずるところがむずかしかったです。けど、一つできたので、うれしかったです。今回は二個作れました。

笛作り きれいなねいろを かもしだす 上沼田小 5年

○ たのしかった。

上沼田小 2年

○ 今日は、ナイフをつかって竹笛を作りました。うまく音が出て、うれしかったです。くろうした所は、ナイフをつかってななめに切った所がくろうしました。

竹笛で ナイフつかって いい音だ！ 鹿浜第一小 3年

\*秋の空 竹笛吹いて 合奏だ

母

○ 私は、初めて竹笛をつくって、むずかしかったけど、楽しくできたので、よかったです。また、やりたいです！！

鹿浜西小 4年 菅井 心

\*穴の大きさや、上に筒をつける位置によって、音が違って、それも面白いと思いました。楽しかったです。

たけぶえの そぼくなねいろ かわいいな

母

○ 今日の、竹笛作りは、きれいになり、よかったです。最初は「ケガをするんじゃないのかなー」と思いました。でも、ケガはなかったです。また、やりたいです。

ふえづくり きれいになって おもしろい 栗原北小 5年

○ きょうは、竹ぶえ作りをして、たのしかったです。竹ぶえを、ぼくは2こ作りました。

鹿浜西小 2年

○ 1本の竹を、切ったり・削ったり・穴を開けたり・紙やすりで磨いたり、竹がだんだん変身していき、最後にはウグイスのような音が出てくるのですからビックリでした。子どもたちがナイフを動かし、真剣に竹に取り組んでいる姿をみて、とても頼もしい気持ちになりました。音が出るまでネバル姿にも、心強さを感じました。

たった1本の竹に、手を動かし、考えながら工夫していくと、別の物ができる喜びと新鮮さを感じ、心の広がりが増えたのではないのでしょうか。

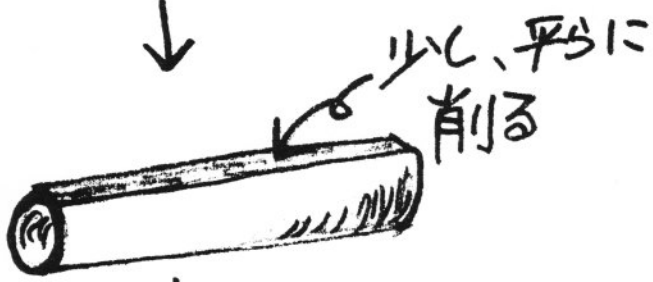
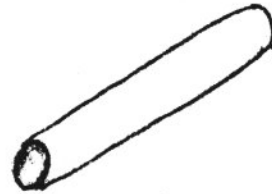
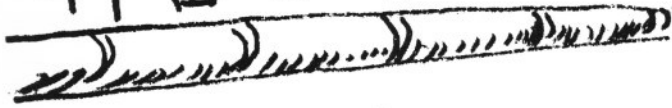
このように、子どもも大人も共に学び合う姿こそ、一番気持ちのいい姿だと思います。

天高く 笛の音色が とんでいく

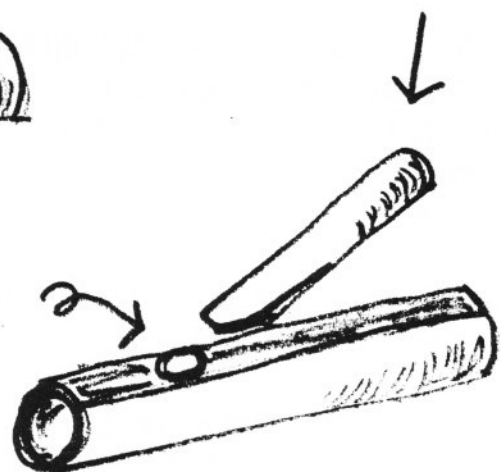
のらえもん

のらえもん  
梅北:作

# 竹笛のイメージ

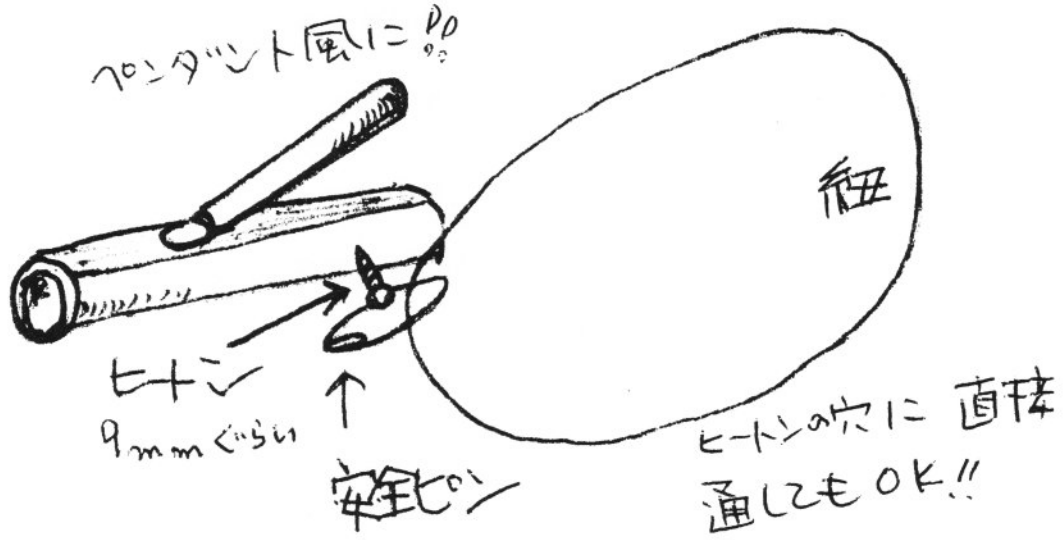


瞬間接着剤  
でくっつける



音の出るところを  
調節してから  
接着する!  
※軽く吹いて音の  
出るところを探す

完成!



## 御礼、のらえもん米！

宅間農園で

田植え（5月18日）、稲刈り（9月21日）を実施してきました。

その成果が、「のらえもん米」という形で実りました。

100%コシヒカリの、白い大粒の米です！

この一粒一粒が、のらえもんの皆さんの、米への愛情の結晶です！

11月16日の、のらえもん米の販売には、たくさんの方々にご協力していただきました。心より御礼申し上げます。

### のらえもん米 総販売量

のらえもん会員・他	・・・	310 kg
北三谷小学校	・・・	207 kg
合計	・・・	517 kg

のらえもんが米作り体験にこだわる思いを、朝日新聞天声人語が代弁してくれていました。ぜひ、一読を願いたいと思います。

仲間同士の結びつきを表すのに「同じ釜の飯を食った仲」という。「同じ釜の pasta を食べた」とはきいたことがない。瑞穂の国と呼ばれる日本で、お米の一粒一粒は、数千年の歳月とともに暮らしと文化をつくり上げてきた。

春に種をおろし、梅雨時に水をたっぷり蓄え、夏の青田、秋には黄金の穂波が風にゆれる。心の古里ともいうべき美景が、ゆたかな国土の上にある。「息をのむほど美しい棚田の風景」と語った阿部首相にうなずく人は、少なくないはずだ。

その米作りをめぐる、TPP交渉が大詰めを迎える。加えて政府・与党は減反政策の見直しを検討するという。これまでの「過保護」から、市場原理の大海に放り込もうという話である。そうなれば規模の小さい農家は厳しさを通り越す。

やむなしとする声は多い。しかし、とも思う。経済は数字で動くから、米が身にまとう歴史や文化、景観、生態系への寄与といったことは交換価値と見られない。外国産と競争するために、この国は大事なものを失ってしまわないだろうか。

いま米の消費量は減った。だか故・井上ひさしさんは「日本人はまだ箸を手放していない」と稲作への希望を語っていた。水田はすぐれた公共財で、米は日本の安心や安全を担う大切なものであると。

「米」の字を分解したように、米作りには八十八回手がかかるとされる。こまやかな伝統・風土と、グローバル時代の効率農業。前者を失わず後者を得たいというのは、虫のいい話しだろうか。 (2013, 10, 30)